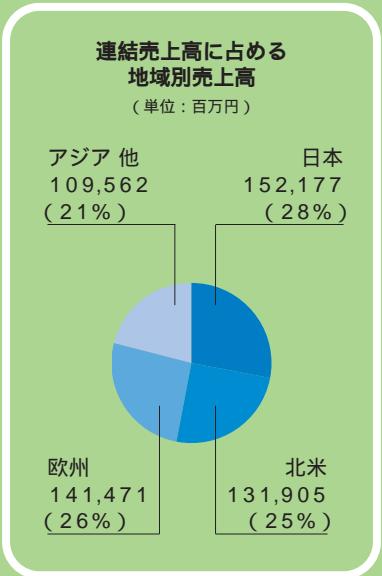


主要事業の状況

Review of Operations



注1: 売上高はグループ内取引を除いた外部顧客に対する売上高です。
注2: 実質ベースとは、為替の影響による目減り分や前年同期のコニカ・ミノルタ間の取引による膨らみ分を差し引いた実質的な比較を意味しています。

情報機器事業



売上高 281,394

営業利益 26,733

(単位:百万円)

MFP事業では、カラーMFPやモノクロ高速MFPなど付加価値の高い製品の販売を拡大。プリンタ事業でも、欧米中心にカラープリンタの販売拡大に注力。(実質ベースでは、売上高が38億円の増収、営業利益は17億円の増益)

本年3月に発売開始したカラーMFPの戦略商品「bizhub C350」が、各国市場で販売好調。カラーMFPの販売台数は前年比72%増。

モノクロMFPも堅調に推移し、販売台数は7%増。

カラープリンタは低速セグメントの戦略商品「magicolor 2300」の販売が好調に推移し、前年比60%増。

オプト事業



売上高 44,008

営業利益 7,200

(単位:百万円)

光ピックアップレンズや液晶偏光板用フィルムを中心に、前年比で增收・増益。(実質ベースでは、売上高が54億円の增收、営業利益は16億円の増益)

主力の光ピックアップレンズ事業は、CDやDVD機器用が生産調整局面に入ったが、販売シェア維持に努める。

デジタルカメラ用のレンズユニット事業は、第2四半期以降需要が鈍化。

カメラ付携帯電話用のレンズユニットや液晶偏光板用フィルムは、強い需要を背景に販売堅調。

フォトイメージング事業



売上高 142,824

営業利益 4,004

(単位:百万円)

フォト事業の市場環境は厳しいが堅調に推移。デジタルカメラの急激な価格下落により損益が悪化。事業収益性改善を目指した構造改革を急ぐ。(実質ベースでは、売上高は56億円の減収、営業利益は45億円の減益)

カラーフィルムは、ロシア・中東・アジア地域での販売強化にプライベートブランドなどの取り組みを展開。

デジタルミニラボ「R2 SUPER」の海外販売好調により前年比50%増。印画紙もそれに伴い販売堅調。

デジタルカメラは、価格下落や旧製品の在庫処理で収益が悪化。

メディカル& グラフィック事業



売上高 60,900

営業利益 4,311

(単位:百万円)

医療分野を中心に堅調に推移。(実質ベースでは、売上高は34億円の増収。営業利益はほぼ前年並み)

医療分野は、デジタルX線入出力機器やそれに対応したドライフィルムの販売が好調に推移。

印刷分野は、国内市場でのフィルム需要減少に対応し、色校正機器やデジタルダイレクト製版機などの事業へ転換を図る。

計測機器事業



売上高 2,643

営業利益 873

(単位:百万円)

色計測機器を中心堅調に推移。

大型液晶テレビなど、フラットパネルディスプレイ業界向けの光源色計測機器の販売が好調に推移。

物体色計測機器では、自動車産業をターゲットとして販売拡大に注力。